

令和元年度（第4回）北九州市公共事業評価に関する検討会議 議事録

日 時：令和元年12月17日（火）
15：40～17：00
場 所：北九州市役所本庁舎（5階）
プレゼンルーム

1 事業内容説明について

・【事前評価2】新科学館整備事業

～事業課より資料6に基づき説明～

2 内部評価結果について

～事務局より資料8に基づき説明～

3 質疑応答について

（座長）

それでは委員の皆様、ただ今の事業課及び事務局からの説明につきまして、ご意見、ご質問等があればお願いしたいと思います。

（構成員）

初歩的な確認ですけれど、資料6の49ページ、事業用定期借家契約は何年でしょうか。

（子ども家庭局青少年課）

まだ、基本的な合意段階ではあるのですが、30年を想定してございます。

（構成員）

事業用定期借家契約ということは、30年後に必ず返さなくてはいけなくなるので、30年後には、施設としては閉じる前提ということですね。

（子ども家庭局青少年課）

その契約としてはそういうこととなります。その後、更新をするかどうかや、その後の取扱いをどうするかということは、当然協議ということになると思いますけれども、契約上は一旦そうなります。

（構成員）

わかりました。

（構成員）

ご説明ありがとうございました。この新科学館整備事業について、概ね賛成と私は思っております。

そこで、私たちが今回の事業で学ぶべきことがあると思っています。

一つは、今まで、他の公共施設を含めてスクラップ&ビルドのような形で、30年ないし40年経って、老朽化してくると新しく建て替える。そのため、今だと、財政的な余裕がないとい

うところでどうするかという検討がなされているということが、他のところと同じ課題を抱えているというのが一点。

もう一つは、先ほどの事業課の説明にもあったように、最新の科学の提供といったことがなされていなかったというところであり、大きく分けてこの2点からスタディできると思っています。

私たちが学べることとしては今回、一つは躯体を民間事業者が整備をして、そこから借りることができるということ。費用の平準化を望めるということで、スクラップ&ビルドではない考え方で、収支均衡とはいかないまでも、そういう形でやっていこうということなのかなと。もう一つは、先ほどの科学の提供といったところ。

その二つに関連することとして、やはり料金なのかなと思います。

今後ご検討されるとのことでしたが、社会教育施設とはいいつつも、利用者にとどこまで負担してもらおうのか。なぜそこが重要かという点、料金の検討ができていないと、最新の科学の提供に対して、持続可能的ではないですね。現在の施設は、展示を更新できていない。そこに財源をつけられなかった、つけてこなかったということもできると思いますが、誰が悪いということではありませんが、財源をつけられなかったということではいけませんよね。

ここは、料金でもって、常に新しく変えていく。

もちろん、原理原則のようなものは変わりませんが、今日視察させていただいて、楽しめることは沢山ありました。そういうところは変わらなかつたり、また、古典的なものに触れられて楽しかったりと感じる部分もあったのかなと思います。やはり、今の時代とかけ離れているところもありますよね。科学館といいながら、占いの機械がありました。それはそれで歴史を感じる要素として良いのですが、できた当初のまま置いてあるだけでなく、こう変わりましたよという見せ方をしてはどうでしょうか。「今はスマートフォンのようなデバイスですよ」といったものなら良いのでしょうか、そうはなっていない。やはり少し物足りなさを感じるころかなと思います。

そう考えると、持続可能的に、更新を考えないといけません。この施設は中身だと思っんですね。ですので、中身の更新もできるのかということで、ここから学べるのが次の時には改善されるのかなと思っまして、今のイオンから躯体を借りるというやり方を新しいモデルケースとして、持続的に、教育は10年後にやめていいかというところではないので、資料にも書かれているように、理科離れやものづくりのまちといったところは続いていく、続けていきたいと思っしているので、やっていくことに対して、意識の転換を。また、他の事業もすごく見習えるところもあるのかなと。今の事業を、形を変えて継続していくからには、ここでの学びを二度と起こさないことが大切かなと思っしました。

もう一つは、B/Cのところの算出が難しいということは理解しています。

コストの部分は計上が簡単ですけど、やはり、ベネフィットの部分が難しいと思っします。住民に説明するうえで、定量的にできれば一番良いですが、できなかったとしても、「科学館ができることで、私たちはこれだけの便益を受けるんだよ」ということが、コスト以上にあるというふうには言っていかないと、ここに税金を投入するということですから、そこは皆さんの見せ方ということもあるかなと思っしたので、お願いしたいと思っします。

以上でございます。

(座 長)

はい。料金の検討をしっかりとやっていただきたいということと、後は、住民を含めて市民へベネフィットの説明をしていただきたいということですね。

(構成員)

それでは、関連して、資料6の47ページ、支出に関して、現科学館とK I G Sの支出をもと

に算定したとのことですが、今お話のあったように、常に中身を更新していかなければいけないし、そのためには、それができる人に対してコストをかけるべきだと思っています。

それが、現科学館のような体制をもとにした想定というのは、少し大丈夫なのかなと思います。最終的には委託等するのかもしれませんが、数年単位で変わっていかなくてはいけないわけですから、そのためのコストはちゃんと見込めているのでしょうか。

(子ども家庭局青少年課)

確かに、現在の児童文化科学館とK I G Sの支出をベースにして算定したものではございますが、新科学館の規模感から、おおよそ想定される人員数がある程度弾いております。そこから、管理部門などは統合できますし、事業も統合してできることもありますので、その辺りの縮減効果を見込んでいただいております。おっしゃる通り、しっかりと人員配置を行っていかねばいけませんし、質の強化という面もございまして。一方で、コストの面もしっかりと管理しながらといった、両面がございまして。こちらの資料だけを見ると、コスト縮減の部分だけが目立っておりますが、そうした質の部分も重視したいと考えてございまして。

(構成員)

かなり専門的な知識のいる人が必要だと思うので、普通の算定とは違うのかなと。

(子ども家庭局青少年課)

はい。そうですね。

(構成員)

もう一つよろしいですか。

先ほど30年という話があったけれども、スペースワールドができて、完全になくなってしまったのが30年弱です。30年というのはそういうスパンですから、契約の相手方であるイオンモールの状況が30年後どうなるか分からないですよね。そういう時に、この科学館については、残るのかということも含めて、契約の交わし方はどうなっているのでしょうか。仮に、イオンモール側の事情で科学館がクローズになるということはあるのでしょうか。場所としては借りている形になるわけですから。

(子ども家庭局青少年課)

仮定の話となるので、お答えしづらい部分もございまして、また、契約も交わしているわけではございませんので、現時点での想定を申し上げますと、位置的にも一番いのちのたび博物館に近い用地でございまして、仮にイオンモールの事業形態に何かしらの事業環境等の変化があったとしても、基本的には教育的な要素を持つ公共施設ですので、長期的・安定的に運営したいというのも我々の思いとしてございまして。ですので、逆に言いますと、事業用定期借家契約を結ぶことで、安定的な運営を担保したいという思いがございまして。

(構成員)

その辺りのことに気を付けて、契約について考えてくださいという要望とします。

(子ども家庭局青少年課)

はい。

(構成員)

私も、構成員の言われるように、人材の問題があると思います。

北九州市には折角、良い大学があります。例えば、九州工業大学では、ロケットを飛ばすという話も出ていますよね。そういう話を、地元の子どもたちや家庭にいるお母さんたちに教えてあげられるくらいの取組みをしないといけないと思うんですよね。それを知れば、やはり自信になるし、自慢ができる。例えば、他県の親戚に、「うちの北九州はね！」ということと言えるんですよね。だから、そういう人材には、例えば、積極的に委託料を払うとか、そうすれば研究費の足しになるとか、そこまで定期的にやっていくことが大事じゃないかなと思います。最先端のことを知っている学生や教授等がいらっしやるので、子どもたちに魅力ある話ができる人に対して、そういうことをやらないといけないんじゃないかと思いますし、そういうことをやってほしいなと思います。自慢になりますよね。北九州の。

(座長)

その点は、委員会などでの検討はされていますか。大学との連携ですよね。

(子ども家庭局青少年課)

はい。九州工業大学をはじめ、北九州市立大学等、理系の学部がございます。理系の人材、学生を確保するという視点もございますし、シビックプライドの観点から、地元で最先端のことをやられていることを、市民の皆さん、そして市外の方にも知って頂くという点もあるかと思えます。九州工業大学は、人工衛星に関して世界の最先端を走っておりますので、これを皆さんへしっかりとPRできるようなものも、やっていければと思っております。

(構成員)

ぜひ、お願いします。

(構成員)

構成員の皆さんが、ほとんど私の考えていることを話してくださったので、一つだけ。

現在の児童文化科学館の老朽化に伴い、新科学館を整備するということがありますが、資料6の12ページ、対象者が、①子供を中心とする全世代、②修学旅行生、③国内外からの観光客ということで、全世代という感じがするのですが、小学生と、中学生、高校生って、違うと思うんですよね。それをどのように考えられて、新科学館として運営していくのが重要じゃないかと思うし、構成員がおっしゃられたように、ソフト面が変わっていかないといけないということで、今は幼稚園生でもスマートフォンを持っている時代。どんどん物事が私たちの想像のつかないような進歩を遂げていっている中で、それを予測して運営していくのは難しいかもしれないが、余地があるようにして頂ければありがたいと思います。メインのターゲットはやはり小学生なんですか。

(子ども家庭局青少年課)

そうですね。科学館は、基本的には小学校4年生、5年生あたりをターゲットの中心に据えております。

ご指摘いただきましたように、全世代ですとか、市内外の観光客を含めて、全方位的で、幅広にとっておりますけど、現在の児童文化科学館は、小学4年生の利用が大半でございます。

今回、集客のある程度見込めるエリアに立地しますので、いろいろな方々に来ていただきたいと思っております。その中で、展示については、今まさに頭をひねって考えているところです。小さいお子さん向けであれば単純に楽しいだけでも良いでしょうし、ある程度年齢を重ねれば、科学の原理原則や不思議さがわかってくるとか、さらにもう少し上になると、その仕組みや背景、

歴史といったところを深掘りして、自分たちで勉強していけるような仕掛けを考えていきたい。年齢別にどういった理解をして頂けるかという工夫をしていきたいと考えています。

(座長)

実は私もこの点は気になっておまして、**資料6**の46ページで、科学館は社会教育施設であるという文章で、「幼児及び小・中学校の児童・生徒の文化の向上と科学教育の振興を図る」として、これと、全世代を対象にするというのが、どういう位置関係になっているんだろうかと少し思いました。

「子供を中心とする」ということなので、そこを中心に、全世代来てくださいということだと思のですが、例えば、国立科学博物館へ行くと、結構大人同士で来たりしていますよね。そして、子どもと同じように楽しんで、長い時間そこで過ごしている。あのレベルというのは、金額が違うので難しいと思うのですが、中身の工夫によっては大人同士で行っても十分楽しめる施設になるんじゃないかと思います。むしろ、子どもに限ってしまうと、ほかの世代が楽しめないこともあるんじゃないかと。ウェイトを置くのは子どもでも構わないのですけれど、思い切って、全世代と言い切って良いと思いますよ。

(子ども家庭局青少年課)

教育普及機能がありますので、子どもを中心にはするのですが、座長のおっしゃるように、大人も来て楽しめるものということで、全方位的な書き方となっていますけれど、そういったところを狙っていきたいというのも、今回新しいコンセプトとなっております。

(構成員)

土日もちろんやるんですよ。

(子ども家庭局青少年課)

はい。決定はしていませんけれど、基本的にはイオンモールさんの新施設の営業時間や営業日と合わせるというのが、相乗効果を発揮しやすいと思いますので。

(構成員)

土日は少し中身を変更し、社会科見学の際はコンテンツを変えるといったことは可能ということですか。

(子ども家庭局青少年課)

はい。

(構成員)

こういうのは、お母さんやお父さんが勉強してないと、子どもと一緒に連れて行こうという気にならないですよ。子どもだけで行ってきなさいじゃ難しいと思うので、親の教育も重要です。先ほどのロケットの話もニュースを見て知ったくらいで、見ていなければ全然わかりませんから。

(子ども家庭局青少年課)

家庭に持ち帰って親子の会話になるような、そういうものにしたいなとも思っております。

(構成員)

だから、お母さん世代をまず、教育してほしいですね。

(座長)

対象を少し広めにとられてはということですよ。

(子ども家庭局青少年課)

ありがとうございます。

(座長)

私から何点か、今までの議論と関係してくるのですけれど、この事業の所掌について、今は子ども家庭局ですけど、世代を広げるとなると、例えば市民文化スポーツ局とか、産業経済局との関わりも出てくると思うのですが、そのところはしっかりと連携をとっていただければと思います。KIGSの所掌はどちらでしたかね。

(子ども家庭局青少年課)

産業経済局です。

(座長)

そこをしっかりと連携をとらないと、今回はそれがコンセプトになっているので。

(子ども家庭局青少年課)

今、兼務も発令されておまして、一緒になってやっているところでございます。

(座長)

それから、この周辺は博物館系統を集積していて、非常に良いことだと思ってるんですね。

一日学習できるというゾーンがある。その時に、今日あまりなかった話なのですが、ほかの施設との回遊性についての議論をこれからしっかりしていただきたくて、お互い、どういったところで連携や協力ができるのか、あるいは、どういったところで違いが出せるのかということについて議論いただきたい。

最後に、小さい話かもしれませんが、ショップはつくるのですか。この図を見るとショップがないようですから。

(子ども家庭局青少年課)

この図は科学館の機能に特化しているのです。

(座長)

私はショップを作ったほうが良いと思います。

なぜかという、二点あって、見学した後、思い出に買って帰りたくなるものなんですよ。そういう場がないというのは、リピートしてもらえるかどうかにつながりますよね。思い出す機会がなくなりますので。記憶に残る装置として、ショップは必要だと思います。

もう一点は、支出のほうが多い施設ですので、いくらかでも、収入を増やしていく努力を見せないと、市民としても支出で出ていく一方なのかということがありますので、収入の手段はショップだけでなく、色々な検討をして頂きたいという思いがあります。

できるだけ、収入と支出の差を埋めていただきたい。できれば毎年改善していけるような方向

性を打ち出していきたいと思います。

(構成員)

この一帯に施設がたくさんあるということで、エリアとしてどう売っていくかという話として、例えば、セグウェイや自動運転といった移動の手段など、色々な取組みがクローズな場所としてできるはずだと思います。エリアを技術で売っていく見せ方などは、工夫できるのではないかと思います。最先端のことを、規制緩和などうまく使ってやっていただければと思います。

(座長)

自動運転の電気バスを走らせるなどもありますよね。KIGSとは少し距離も離れていますし。

(座長)

それでは、各委員の皆様から様々なご意見をいただきましたが、ここで一つ確認をしておきたいことがございます。

基本的に当該事業をこの計画で進めていくことに対して、ご異議、ご意見などありませんでしょうか。

< 異議なし >

異議なしということで、ありがとうございました。

それでは、当該事業につきましては、この計画どおり進めていくことを前提とした上で、検討会議としての意見を整理したいと思います。

- ① 料金の設定についてはしっかりとご検討いただきたい。科学技術の更新に合わせて持続的に展示内容等の更新ができるように、ある程度内部で蓄積を図っていただきたい
 - ② 新科学館ができることによる利益・ベネフィットを、市民に広報や普及、説明をしていただきたい
 - ③ 科学館内の専門家の育成をしっかりといただいて、科学技術の進歩についていけるような施設にしていきたい
 - ④ 内部の所掌について、他部署との連携をとりながら進めていただきたい
 - ⑤ エリア内他施設との回遊性を考慮して、エリア内の移動手段等を検討していただきたい
 - ⑥ ショップを併設するなど、収入の手段を検討していただきたい
- ということでございます。

このような意見を「公共事業評価に関する検討会議の意見」としたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいですか。

< 異議なし >

異議なしということで、これらを検討会議の意見としたいと思います。

ありがとうございました。

なお、具体的な記載内容につきましては、座長である私がお預かりいたしまして、事務局と調整させていただきますがよろしいでしょうか。

< 異議なし >

本日の会議資料及び議事録につきましては、後日、市のホームページに掲載することといたします。議事録につきましては、私が事務局と調整させていただきたいと思います。

それでは今後の予定につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

只今、構成員の皆様からご了承いただきましたとおり、「新科学館整備事業」につきましては、計画どおり事業を進めさせていただきます。

今後の予定といたしましては、本日の検討会議の意見を踏まえまして、市の方で「対応方針(案)」を決定し、市民意見の募集、パブリックコメントの手続きに入らせていただきたいと思います。お待ちしております。

以上でございます。

(座長)

ありがとうございました。

それでは、これで新科学館整備事業の審議を終了いたします。

お疲れ様でした。